

報告**聴覚障害者も共に楽しめる星空観望会の
実施報告**

中島真太郎（月まち倶楽部）

1. はじめに

月まち倶楽部（以下、当会）は、主に都立浮間公園で星空観望会を企画・運営しているボランティア組織である。当会のメンバーは六本木天文クラブの星空案内人講座の卒業生で構成され、令和 5 年 10 月から都立浮間公園で四半期に 1 回のペースで定期的に星空観望会を実施している。都立浮間公園は東京都北区と板橋区の境に位置しており、J R 浮間舟渡駅から徒歩数分と立地もよく、公園の真ん中に池があるため、上空が開けているところが特徴であり、星空観望会では毎回、100 名から 200 名ほどのお客さまが参加する。

この度、浮間公園星空観望会の一環で聴覚障害者も一緒に楽しめる星空観望会を実施した。実施に際しては、開催事例や配慮すべき事項を情報収集し、開催までの課題を整理、解決を行ったため、実施内容も含めて、一連の状況を報告する。

2. 実施までの枠組み

本企画は令和 6 年 3 月に浮間公園サービス長から、聴覚に障害を持つ方と一緒に星が楽しめないと相談を受けたことで始まった。

本企画の枠組みを表 1 に示す。表 1 のような流れで本企画が進行した。

まず、3. で聴覚障害者を対象とした観望会の先行事例を調査し、4. で先行事例や公園との議論を基に課題の整理を行った。5. では課題への対応策を検討し、6. で実施した状況を報告する。7. では実施状況についてアンケートを用いて実施状況を分析した。8. で本企画を通して得られた知見及び課題を整理した。

表 1 準備から実施までの枠組み

項 目
3. ヒアリングによる事例調査
4. ヒアリング調査を基に課題整理
5. 課題への対応方法の検討
6. 実施
7. アンケートによる実施状況の分析
8. 得られた知見及び課題の整理

3. ヒアリングによる事例調査**3.1 ヒアリング調査の概要**

公園から本企画の相談を受けてから、当会では先行事例の調査を行った。インターネットを用いて検索をかけたが、本企画のような事例は発見できなかった。そこで、星空観望会や本企画の類似事例に詳しい方にヒアリングを行うこととなった。

ヒアリング調査の対象者の選定を行った。対象者とその選定理由を表 2 に示す。星つむぎ村の高橋真理子様、京都大学名誉教授の嶺重慎様、山形大学名誉教授の柴田晋平様にヒアリング調査へご協力をお願いした。

質問内容については、1)聴覚障害者を対象とした星空観望会の開催事例または類似事例はないか、2)天体の解説等に適しているコミュニケーション方法はどのようなものか、3)その他聴覚障害者に配慮すべきことはあるか、の 3 点を質問した。

表 2 ヒアリング調査の対象者と選定理由

対象者	選定理由
一般社団法人 星つむぎの村 代表理事 高橋真理子様	一般社団法人星つむぎの村にて障害者を対象とした星空観望会等の実績が多数あり、障害者向けの星空観望会の知見を多く有している。
京都大学 名誉教授 嶺重慎様	ユニバーサルデザイン天文教育WGにて天文のバリアフリー学習に取り組み、障害者向けの星空観望会の知見を多く有している。
山形大学 名誉教授 柴田晋平様	星のソムリエの創設者であり、ソムリエのフォローアップにもご尽力しており、様々は星空観望会の事例を把握している。

3.2 ヒアリング調査の結果

ヒアリングの結果を表3に示す。

開催事例としては観望会の1コーナーとして事例がある状況であった。また、聴覚障害者も参加したワークショップ及び講演会が類似事例としてある状況が判明した。

コミュニケーション方法としては複数用意し、文字によるコミュニケーションを充実させると健常者の方にも喜ばれる点が判明した。

その他の配慮事項として、緊急時を想定して情報を映し出すプロジェクターを用意する点、広報方法を聴覚障害者にも届く方法を検討する必要がある点が判明した。

4.課題整理

前項の調査結果を基に、当会と浮間公園で聴覚障害者も参加できる星空観望会について議論し、開催までの課題の整理を行った。課題は表4に示す。

表 3 ヒアリング結果

対象者	ヒアリング結果
一般社団法人 星つむぎの村 代表理事 高橋 真理子 様	<事例> ・重症児や難病児向けのプラネタリウムや観望会の1コーナーとして、聴覚障害者について手話通訳者を赤いライトで照らして、一つ一つお伝えした。 <解説方法> ・UDトークとスマートグラスを使うやり方が一番暗い中ではいいのではないかと。 ・年齢によってもコミュニケーション方法が異なるため、複数のコミュニケーション方法を用意しておくべき。 <その他配慮事項> ・何か緊急事態が発生した際、情報が伝わらない危険性がある。スクリーンとプロジェクターを置いて緊急の情報を映すと良い。 ・望遠鏡の覗き方など注意事項は文字盤を用意しておくのと良い。
京都大学 名誉教授 嶺重慎様	<事例> ・ろう者向け観望会の事例は把握していない。 ・ろう者むけのワークショップ、シンポジウムは経験がある。 <解説方法> ・観望会は暗い中ですので、手話をしても見えませんが、何らかの工夫が必要になる。 ・手話がよくわからない難聴者がいる場合、文字通訳の併用もあったほうがいいでしょう。 ・PCなどを使って、解説の文字や画像を示す形がいいが、夜空が見えにくくなるのでそういった光を気にする参加者がいるかもしれない。 <その他配慮事項> ・どのように聴覚障害者に周知・広報するかが課題になる。聴覚障害者は、情報源をもたず孤立していることが多いので、通常のやり方ではなかなか来てもらえない。
山形大学 名誉教授 柴田晋平様	<事例> ・ろう者向けの観望会の事例は把握していない。 ・山形では天文講演会を開催するときはろう学校にも参加募集をかけていた。ろう学校生も積極的に参加していただいていた。 <解説方法> ・上記講演会では地元の要約筆記のボランティアグループの協力で話したことをテロップとしてスクリーンに表示した。 ・手話ができない方や手話も方言があるため、文字表記の方が良いということだった。 ・副次効果として健常者の方もちよっと聞き逃したことが文字で表記されるので、非常に喜ばれた。 ・現在はAIをつかうと人力で文字にしなくてもよいのでAIに移行すると思われる。

表 4 課題整理

項目	小項目	課題
安全対策	開催場所及び 順路の整備	口頭での注意喚起が難しいため、安全なところで実施する。手話が見える程度の明かりがある。
	子ども 対策	走る子どもに聴覚障害者は気づかないため、注意することが必要である。
	緊急時の 情報伝達	緊急時、聴覚障害者に情報を届ける手段を検討する。
コミュニケーション方法の確保	一方向 (説明等)	口頭での説明ができないため代替のコミュニケーション方法が必要である。
	双方向 (質問等)	口頭での質問が受けられないため、代替のコミュニケーション手段が必要である。
支援団体の確保	広報手段	従来の広報手段（公園掲示板へのポスター掲示）では聴覚障害者へ届かない。
	コミュニケーション支援団体	手話によるコミュニケーション能力が不足しているため支援団体に補ってもらう必要がある。
その他	他障害者	聴覚障害者向け観望会と広報しても他障害者も来場する可能性がある。

安全対策として、口頭での注意喚起や順路案内が困難であるため、口頭でのご案内が最小限で済むよう、安全な場所で開催し、順路もわかりやすく工夫することとなった。また、通常の観望会でも参加者へ会場では走らないように呼びかけを行うが、聴覚障害者については走る子どもに気づきづらいため、通常よりも重点的に注意することとなった。

ヒアリング調査の結果から、緊急時に聴覚障害者にも必要な情報を伝えられるようなものが必要であるため、手段を検討することとなった。

コミュニケーションの確保が本企画の最大の課題であるが、説明等の一方向のコミュニケーションと質問等の双方向のコミュニケーションと2つにわけ、それぞれ複数の手段を用意することとなった。

浮間公園星空観望会では従来、公園の掲示

板にポスターを掲示することで観望会のPRを行っていたが、この方法では聴覚障害者へ伝わらないと考えられたため、支援団体を確保することとなった。また、実際の開催を考えると手話でご案内してくれるスタッフも必要であるため、手話通訳がいる支援団体を探すこととなった。天文の知識があり、手話も使える人が望ましいが、確保が困難である点や謝礼が必要となる点から本企画では現実的ではないと考えられたため、今回は天文学の知識があるスタッフと聴覚障害者とのコミュニケーションの仲介を手話で行うことを想定した。

表 5 各課題への対応方法

項目	小項目	対応方法
安全対策	順路、開催場所の整備	・従来通り芝生の広場で開催する。 ・街灯もあり、手話も見える。 ・順路の案内板を設置する。 ・望遠鏡の待機列をコーンで示す。
	子ども対策	・受付を設けて、絶対に走らないように口頭・手話・案内板等の文字で注意する。
	緊急時の情報伝達	・緊急情報掲示板と題して、プロジェクター及びスクリーンを配置し、緊急時に情報が映せるようにする。
コミュニケーション方法の確保	一方向(説明等)	・解説板の設置 ・手話による解説の仲介
	双方向(質問等)	・手話によるコミュニケーションの仲介 ・スタッフに筆談用ホワイトボードを常備 ・UDトークの使用
支援団体の確保	広報手段	・浮間公園から北区聴覚障害者協会及び北区手話サークルへ協力の呼びかけ ・北区聴覚障害者協会及び北区手話サークルの内部で広報
	コミュニケーション支援	・北区手話サークルの支援 ・浮間公園から東京成徳大学手話サークルへの協力の呼びかけ、同サークルのボランティアによる支援
その他	他障害者	・身体障害者に関しては、スタッフの余剰人員を配置し、余剰人員で望遠鏡を支えて天体を見せる。 ・視覚障害者について月球儀を用意し手で月を楽しむ。

5. 課題への対応方法

浮間公園と共に対応方法検討と調整を行った。対応方法は表 5 に示す。

安全対策として、まずは開催場所の安全確保が求められた。従来では浮間公園の風車前の芝生の広場で開催しており、足場も良く、倒れても芝生がクッションとなるため、従来通り風車前の芝生広場で開催することとなった。街灯も周囲にあり、手話が見える程度の明るさは確保できることとなった。なお、従来の観望会でも街灯の明かりが観望会に影響することはなかった。

順路の明示については、図 1 のような順路案内板を設置し、望遠鏡の待機列を図 2 のようなミニコーンで示すことでわかりやすくすることとなった。子どもが走らないように、観望会の中で受付を設け、絶対に走らないように口頭や手話、図 3 のような案内板を用いて文字で注意することとなった。緊急時の情報伝達として、図 4 のように、緊急情報掲示板と題して、プロジェクター及びスクリーンを配置することとなった。緊急時にスムーズに情報が映し出せるように図 5 のスライドを作成した。

コミュニケーションの確保として、説明等の一方向については図 6 の解説板を用意し、文字による解説を充実させることとなった。また、当会のスタッフと手話通訳を図 7 のように配置し、手話を仲介してご案内できる体制を構築することとなった。質問等の双方向のものについても、図 7 のように配置することで手話により質問を受けられる体制となった。また、当会スタッフに図 8 のように、片面はホワイトボード、もう片面はスタッフである明示及び UD トークの QR を記載したプレートを持参させ、聴覚障害者からの筆談及び UD トークでのコミュニケーションが取れるように工夫した。

支援団体の確保については、浮間公園から

北区聴覚障害者協会及び北区手話サークルへ協力の打診を行った。浮間公園スタッフは当該団体の会合にも参加し、協力の呼びかけを行った。その結果、北区聴覚障害者協会及び北区手話サークル内に本企画を広報できることとなった。また、北区手話サークルも手話のできる聴者が多く所属しており、その方たちが本企画を手話で支援してくれることとなった。さらに、浮間公園から東京成徳大学の手話サークルにも協力の打診を行い、大学生が十数名、手話ボランティアとして参加することになった。

他障害者への対応について、本企画のスタッフを通常よりも多く配置し、身体障害者が参加した場合は余剰人員で望遠鏡を支え、天体を見せることとなった。また月球儀を用意し、視覚障害者でも楽しめるように工夫することとなった。



図 1 順路案内板



図 2 待機列明示用コーン



図3 注意看板



図4 緊急情報掲示板



図6 解説板

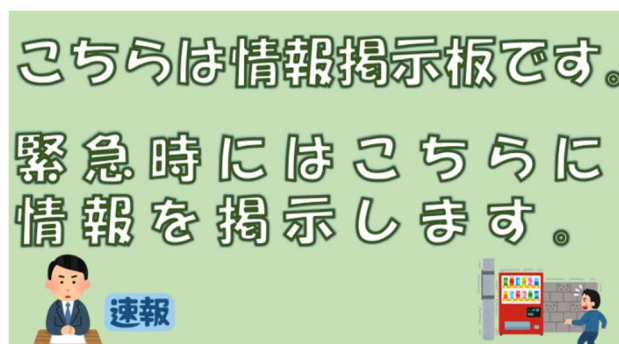


図5 緊急情報掲示板内容



図7 スタッフの配置例



図8 ホワイトボードUDトークQRコード

6. 実施

実施概要を表6に示す。また、人員と機材の配置状況を表7に示し、会場のレイアウトを図9に示す。令和7年2月8日18時から20時に実施し、天気も快晴であった。望遠鏡で月と木星を見せることができ、当日は71名のお客さまが来場された。参加者のほとんどが北区聴覚障害者協会及び北区手話サークル等の協力団体の方々であり、聴覚障害者と聴者が対になって回る場面が多くみられた。他障害者の参加も想定して月球儀を用意したが、他障害者の参加はなかった。協力団体への広報を主として、公園の掲示板やSNSへの広報を直前に行ったことで他障害者までPRが届かなかったと考えられる。しかし、通常の星空観望会と比べ、高齢者の参加が多く、解説板の文字を大きくする等、高齢者向けの対策も必要であった。

各コーナーの情報保障手段については、本企画の運営に当会スタッフだけでなく、東京成徳大学手話サークルのボランティアと北区手話サークルが運営に協力してくれたため、各コーナーに2名の手話通訳を配置することができた。当日はキッチンカーも出店していたため、注文時のサポートのため、手話サークルのボランティアを配置した。図8に示すホワイトボードも運営にかかわるスタッフに常備させ、全員で筆談対応が取れる状況とした。

加えて、当会スタッフのスマートフォンに UD トークをインストールし、UD トークでの対応も取れるようにした。

望遠鏡だけでなく、天文に関するクイズコーナーも設置したが、口頭での出題が困難であったため、図 10 のようにクイズパネルに問題と答えを併記し、答えのみ目隠しをして、お客さまが答えの目隠しをめくる方法をとることにした。クイズの内容は観望対象の月と木星の特徴や文化に関して出題した。前述の通り、高齢者が多かったため、天文の文化についてのクイズは好評だった。

受付にて令和 7 年 11 月に東京で開催されるデフリンピックのパンフレットも配布し、聴覚障害者に関する情報を広く広報することができた。

表 7 人員配置、情報保障手段機材配置状況

	コーナー	人員配置	情報保障手段	機材
①	受付及び質問	当会 3 名 手話 2 名	手話、筆談、 UD トーク	UD トーク用 タブレット
②	木星観望	当会 2 名 手話 2 名	手話、筆談、 UD トーク	望遠鏡 2 台
③	月観望	当会 2 名 手話 2 名	手話、筆談、 UD トーク	望遠鏡 2 台
④	クイズ	当会 1 名	手話、筆談、 UD トーク	クイズパネル 6 枚、プロジェクター 1 台
⑤	情報掲示板	手話 1 名	UD トーク	
⑥	キッチンカー	手話 1 名	手話、筆談、 UD トーク	
	予備人員	当会 3 名		月球儀
合計		当会 11 名 手話 8 名		
記事		人員配置欄の「当会」は当会スタッフを「手話」は手話サークルのスタッフを示す。		

表 6 実施概要

	内容	備考
日時	令和 7 年 2 月 8 日 18:00~20:00	
天気	快晴 気温 4.9℃	
場所	都立浮間公園 風車広場	
共催団体	浮間公園、月まち倶楽部	
協力団体	東京成徳大学手話サークル	
協力団体	北区聴覚障害者協会 北区手話サークル	
参加形態	参加無料、参加自由	
参加人数	71 名	
広報	公園掲示板、公園 SNS、 月まち倶楽部 SNS、 聴覚障害者支援団体による団体内の呼びかけ	
設置内容	① 受付及び質問 ② 望遠鏡での木星の観望 ③ 望遠鏡での月の観望 ④ クイズパネル展示 ⑤ 情報掲示板 ⑥ キッチンカー	



図 9 会場レイアウト



図 10 クイズパネル

7. アンケートによる実施状況の分析

7.1 アンケートの概要

アンケートの概要を表 8 に示す。回答は

GoogleForms を用いてスマホで回答できるようにした。会場の看板に QR コードを掲示し、お客さまに回答をお願いした。回答者は高年齢者を中心に若干回答に混乱が生じていたが、近くにいたスタッフで支援した。質問内容は表 9 に示す。

表 8 アンケート概要

内容		備考
期間	令和 7 年 2 月 8 日 18:00～20:00	
回答人数	41 名 ※イベント参加者 71 名	
形式	GoogleForms を用いた 電子回答	
質問形式	5 段階評価 7 問、選択式 3 問、 自由記述 1 問	

質問 1 は本企画全体の評価、質問 2 は会場の浮間公園への来園頻度を把握するものである。質問 3 は聴覚障害の程度を通して、聴覚障害者の参加人数を把握するものである。聴覚障害者の参加人数といっても音が聞こえづらい人や音が全く聞こえない人、障害の程度を知られたくない人もいるため、質問の表現には配慮が必要であった。質問 4 は観望会の安全性の評価、質問 5 は観望会で天体の視認性への評価、質問 6 は各コーナーでの解説への評価を把握するものである。質問 8～10 は情報保障方法への評価を把握するものである。質問 11 は自由記述としており、観望会への感想や意見を記述できるようにした。

7.2 アンケート結果

質問 1～質問 10 までの結果を図 11～21 に示す。質問 11 の結果を表 10 に示す。質問 1 では本企画についておおむね好評価をいただいた。質問 2 では本企画をきっかけに都立浮間公園に 12 名のお客さまが初来園された。通常の浮間公園の星空観望会でも毎回 1～2

名ほど初来園のお客さまが確認されるが、今回は PR 方法や対象者を変えたため、初来園が増えたと考えられる。質問 3 では全く聞こえない方が 4 名、少しだけ聞こえる方が 3 名参加された。聴覚障害者としては合計 7 名の参加が確認された。質問 4 では観望会の安全性を確認できた。質問 5 では手話が見える程度の街灯がありながら、天体の視認性に影響はなかった。質問 6 では解説についてもご満足いただける内容であったことが分かった。質問 7、8 では手話や筆談での案内も適切に実施でき、スムーズにコミュニケーションが

表 9 質問内容

要素	質問 No	質問内容	回答方法
総合評価	1	今回の観望会についてご満足いただけましたか？	5 段階評価
来園頻度	2	浮間公園にご訪問いただいたのは何回目ですか？	選択式
障害程度	3	差し支えなければ、あなたの聴覚障害の程度を教えてください。	選択式
安全性	4	観望会は安全に運営できていましたか？	5 段階評価
観望評価	5	望遠鏡で天体はよく見られましたか？	5 段階評価
解説評価	6	各コーナーの解説についてご満足頂けましたか？	5 段階評価
順路	7	順路は分かりやすかったですか？	5 段階評価
情報保障への評価	8	手話や筆談でのご案内は適切でしたか？	5 段階評価
	9	スタッフとのコミュニケーションはスムーズに取れましたか？	5 段階評価
	10	どのコミュニケーション手段が最も有効でしたか？	選択式
他	11	今までの評価の理由、本企画の改善点、ご感想等を教えてください。	自由記述

取れた。質問 9 では聴覚障害者との最も有効なコミュニケーション手段について、手話が最も有効であった。筆談や介助者の補助も有効であった。複数の情報保障手段を用意すべきことが示されたと考えられる。一方で UD トークについては利用が確認できなかった。参加者に高齢者が多く、スマホは所持しているものの、UD トークを利用するに至っていないと考えられる。また、UD トークの利用を支援するスタッフを配置する等、利用を促進する工夫が必要であった。その他の手段が有効だったと回答した方も 7 名いたが、その他の手段が具体的に何を示しているかまでは調査できなかった。質問 10 では順路について、他の質問に比べ評価が低かった。

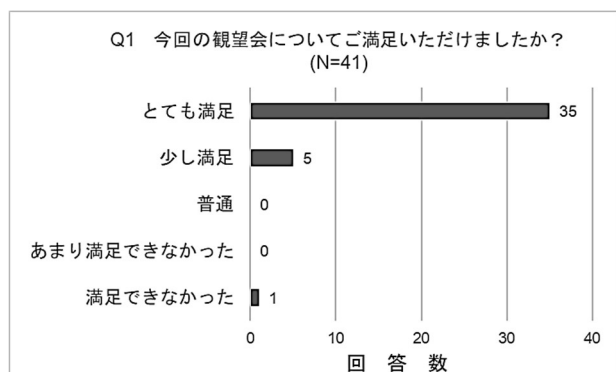


図 11 質問 1 への回答結果

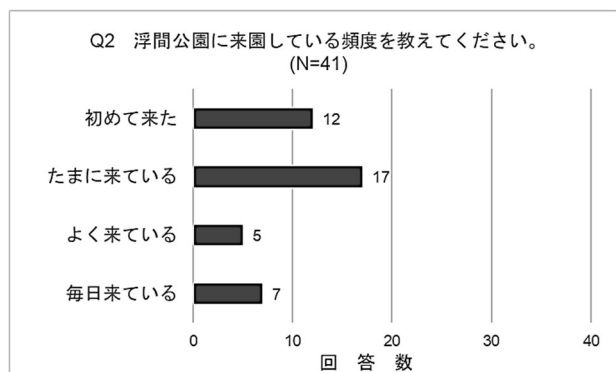


図 12 質問 2 への回答結果

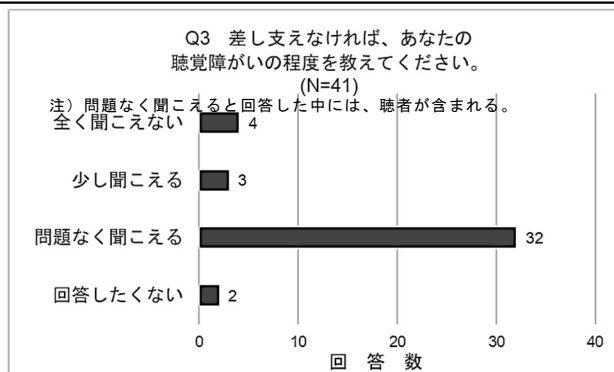


図 13 質問 3 への回答結果

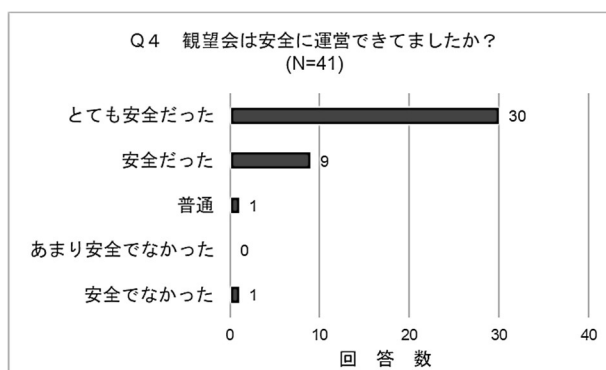


図 14 質問 4 への回答結果

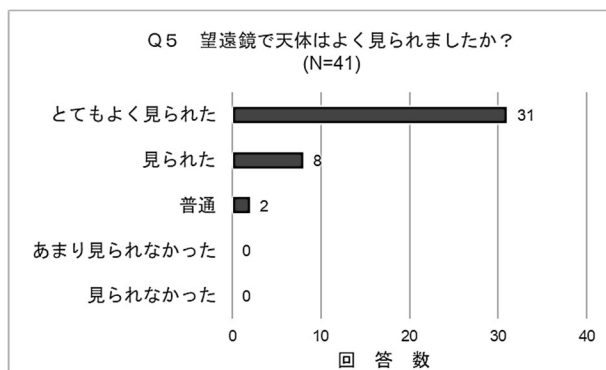


図 15 質問 5 への回答結果

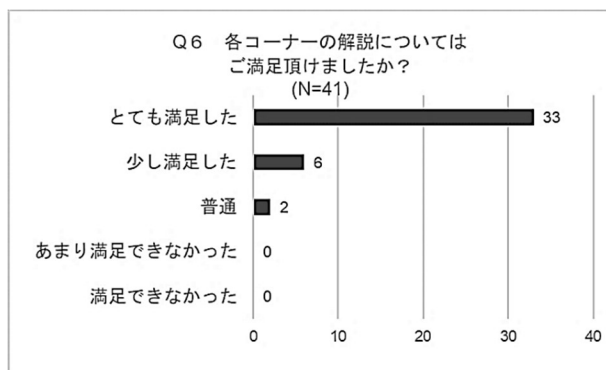


図 16 質問 6 への回答結果

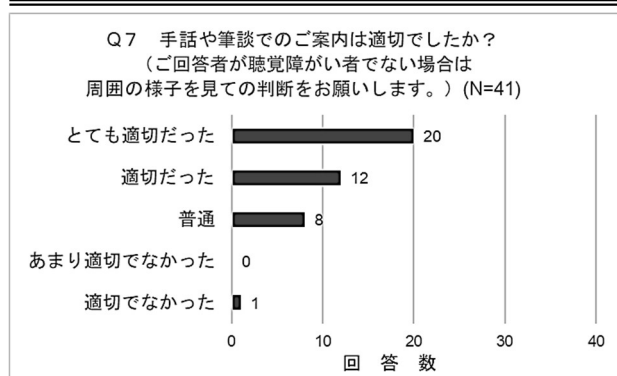


図 17 質問 7 への回答結果

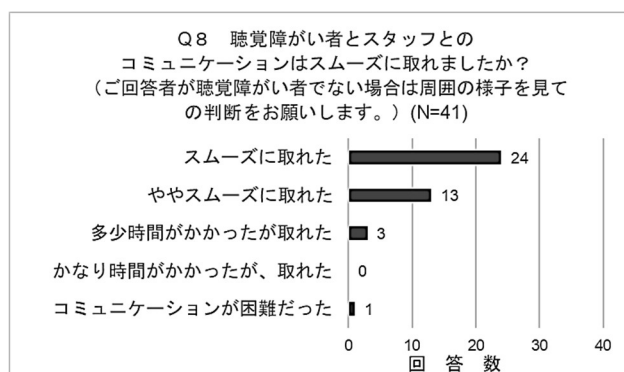


図 18 質問 8 への回答結果

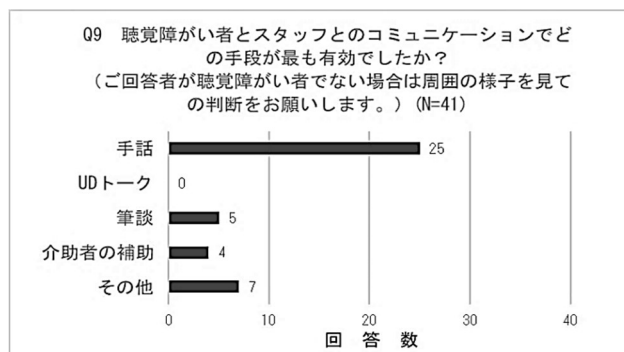


図 19 質問 9 への回答結果

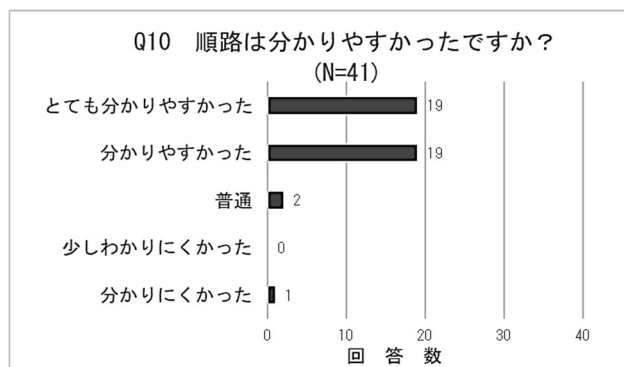


図 20 質問 10 への回答結果

質問 11 では、ほかの天体も見なかったという意見、会場が暗すぎず安心して回れたという意見、当日は望遠鏡でお客さまのスマホを貸してもらい、月の写真を撮っていた。高齢者の方は目が悪く、スマホでとって拡大してみている方がいたが、その方法がよかったという意見があった。電子観望も本企画では検討すべきであった。

回答 7 では手話ができる人が専属で案内をしてくれる方法について意見があったが、手話のできる人員をそろえる必要があるため、現実的な方法か疑問である。

回答 9 では複数のコミュニケーション方法を用意した結果、スタッフとのコミュニケーションへの安心感が高まった旨の回答があった。

回答 10 では列整理に用いていたミニコーンについての意見であり、当日はお客さまがミニコーンを見捨て、自由に移動していた。当日は望遠鏡に待機列ができることもなかったため、ミニコーンや順路の設定は不要と考えられる。

8. 得られた知見及び課題の整理

本企画で得られた知見及び課題を表 11 に整理する。

開催場所には暗すぎず、足場が良く、安全な場所が適していると考えられる。なお、今回は支援団体内での PR を主な広報手段とした。この方法では参加者数が少なくなるため、待機列の対策や順路の明示は特に必要なかった。子供たちへの注意喚起についても今回の PR 方法では高齢者が多くなるため、通常の観望会と同等なもので十分と考えられた。また、安全対策として、緊急時に、聴覚障害者に情報を伝達できるような手段が必要であった。

表 10 質問 11 の回答結果

No	Q11 回答内容 (原文まま)
1	金星も見たいなー
2	受付が少し暗かった
3	台数が多いので全部違う星がみたかったです！
4	良い機会を頂きました。
5	とても綺麗だった。感動した。もっと観ていたい。次の観望会にも行きます。金星が見たい。アンドロメダも見たい。ありがとうございました。
6	暗すぎず安全に回れて良かったです。また参加したいです
7	手話通訳が必要な方にはできればずっと着いて案内できるといいと思う
8	他の天体もみたいです。
9	月がとても綺麗でした。例にもありますが、他の星も見てみたいです。スタッフの皆さんが筆談や UD トークで自ら進んでコミュニケーションとろうとしているのをみて、感動しました。待っている時などに見るパネルなどがもう少しあってもいいかなと思いました。星座とか、それにまつわる話とか。寒いなか楽しめました。ありがとうございました。
10	足元のしるしに躓きそうになったり、蹴飛ばしたりしてしまいました。大きいコーンの方が安全かと思いました。
11	木星も月の表面もはっきり見えて感動。月の写真を撮ってもらい大満足
12	現状のままで良い
13	木星の写真をスマホで撮って欲しかったです。目が悪いので。

聴覚障害者とのコミュニケーション方法としては複数用意する必要があるため、今回の PR 方法では高齢者が多くなるため、手話や筆談のようなアナログな手段の方が、適していると考えられる。なお、解説パネルについても視認性を良くし、文字も大きくする必要があった。

支援団体については、関係者及び関係団体一同で協力して探し、学校や地域の聴覚障害者協会、手話サークル等の協力が重要であった。広報手段については、通常の PR 方法では聴覚障害者に届かないと考えられ、工夫が必要であった。協力してくれた聴覚障害者協会、手話サークル内で広報をお願いすることで聴覚障害者に PR できた。手話サークルの

ボランティアに、解説やご案内を手話で仲介してもらうことでスムーズにコミュニケーションが取れた。

支援団体への広報に注力することで、他の障害者の参加を想定する必要がなくなり、聴覚障害者への対応に集中できた。しかし、通常の観望会より高齢者の参加があり、高齢者の対策が必要であった。

表 11 得られた知見と課題の整理

項目	小項目	対応方法
安全対策	順路、開催場所の整備	・暗すぎず、足場が良く、安全に歩ける場所で開催した。 ・聴覚障害者支援団体に広報することで、参加者数は少なくなるため、順路看板やミニコーンは不要と考えられた。
	子ども対策	・聴覚障害者支援団体に広報することで、子どもの参加数も少なくなるため、通常の観望会と同等の注意で十分と考えられた。
	緊急時の情報伝達	・緊急時、聴覚障害者に情報を伝えられるように手段を用意した。
コミュニケーション方法の確保	一方向 (説明等)	・解説板は高齢者を想定して見やすく文字を大きくする必要があった。 ・複数の情報保障手段を用意した。
	双方向 (質問等)	・複数の情報保障手段を用意した。
支援団体の確保	広報手段	・支援団体内で広報をお願いすることで、聴覚障害者に PR できた。
	コミュニケーション支援	・学校や地域の聴覚障害者協会、手話サークルに協力をお願いした。 ・関係団体及び関係者全員で協力して支援団体の確保に努めた。
その他	他障害者	・支援団体への広報に注力したため、他障害者の参加はなかった。 ・他障害者ではなく、高齢者対策が必要であった。

謝 辞

本企画に関しては、準備段階の事例調査で、一般社団法人星つむぎの村代表理事高橋真理子様、京都大学名誉教授嶺重慎様、山形大学名誉教授柴田晋平様にヒアリング調査へご協

力いただきました。また、東京大学高梨直紘様に上記の方々のご紹介にご協力いただきました。運営に関しては、東京成徳大学手話サークル、北区聴覚障害者協会、北区手話サークルにご協力いただきました。六本木天文クラブ星空案内人講座の卒業生の方々にも様々な助言やご支援をいただきました。浮間公園サービスセンターには準備段階から実施まで様々なご協力をいただきました。この場をかり、心からお礼申し上げますとともに、皆様の更なるご発展を願い、謝辞とさせていただきます。



中島 眞太郎

(東京都職員 小笠原支庁母島出張所)

六本木天文クラブ星空案内人講座 9 期生
『月まち倶楽部』にて、ボランティアで都立浮間公園の星空観望会を企画及び運営しています。